



59・2ダイヤ改正「正」提案

日刊 動労千葉

83. 10. 13

No.1466

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

職場闘争を強化し、二万四千名削減の大合理化を粉碎しよう

国鉄当局は十月十一日、貨物部門の大合理化・旅客輸送の効率化・荷物営業の縮小により、全国で二四〇〇〇名、千葉局全体で四二五名の要員を削減する「59・2ダイヤ改正」の提案を行ってきました。

貨物全廃―「20万人台体制」への突破口をなす攻撃

「59・2ダイヤ改」提案は、ヤード輸送体系から拠点間直行輸送体系への転換で貨車数が四〇〇〇〇両と、列車本数が一五三八本、貨車数が四〇〇〇〇両と、現在に比べて約半減する貨物合理化を中心に、営業で一五〇〇〇名、運転で九〇〇〇名、合計二四〇〇〇名の要員削減を実施するというものであります。

従ってこれは、現業三部門（営業、施設、電気）や管理部門の合理化と合わせ、今年度二八九〇〇名の要員を削減し、「経営改善計画」の六十年年度目標である「三五万人体制」を一年早く達成しようとするものです。

「経営の効率化と乗客サービスの向上を図る」という国鉄当局の宣伝とは裏腹に、臨調答申の「貨物営業は鉄道特性の発揮できる拠点間直行輸送を中心とし、業務のあり方を抜本的に再検討し、固有経費における収支の均衡をはかる」にそった提案として、貨物全廃を展望し「二十万人台体制」への突破口をなす攻撃であります。

われわれは、第八回定期大会の決定に基づき、国労共闘のもと、職場闘争の強化をかちとりつつ交渉を強化し、「59・2ダイヤ改」を阻止していかうではありませんか。

千葉局関係の提案は次の通りです。

「59・2ダイヤ改正」（千葉局関係）提案

I. 実施期間 一九八四年二月一日

II. 実施項目

（旅客関係）

一、輸送力増強
 快速・千葉／津田沼 十往復増（一部十五両）
 普通・千葉／君津、千葉／佐倉 一往復増
 千葉／上総一ノ宮

二、普通列車編成見直し

内房線・東金線の一部四両化（外房の一部含）
 木原線・久留里線 一部減車化

（貨物関係）

荷物営業体制の見直し
 荷物発送個数の少い、八街駅他十八駅の荷物営業を廃止する。

（貨物関係）

貨物営業全般の見直し

① 拠点間直行輸送体系の確立による貨物輸送システムの転換

② 貨物取扱駅を再編成し、管内九駅体制

営業拠点駅…小名木川・千葉貨物
 一般駅…越中島・西船橋・銚子
 …蘇我・君津・新茂原
 輸送基地…新小岩操

貨物取扱廃止駅

大原・八日市場・佐倉・成田・佐原

③ 貨物運輸線区の一部廃止

外房・新茂原／大原、成田・成田／我孫子
 小名木川／越中島は側線化し入換とする。

III. 要員関係

営業 駅二一五名、車掌区三一名の削減
 運転 一七九名の削減

動力車乗務員		検 修 要 員			構 内 要 員		列 車 掛 等	事 務 係
機 関 車	電 車	機 関 車	電 車	客 貨 車	機 関 車	電 車		
△64	△4	△28	△3	△45	△13	△4	△13	△5
△68		△76			△17		△13	△5
△179								

各区の労働条件の細部については次回以降に提案